

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 5 日

1 今年度の重点目標

『強く 正しく 明るく』

2 本年度の経営方針

「札幌市学校教育」や「本校の伝統や方向性」を踏まえて教育の推進・充実
 (1) 「自分が大切にされている」ことを一人一人が実感できる指導・支援の充実 → 自他の命を大切に、相互承認の感度を高め、多様性のある人間を認め合う心を育む
 (2) 知・徳・体の調和・バランスを意識した育ちの推進 → 主体性・自主性・意欲を大切に指導・支援・評価・協働の工夫
 (3) 考え方・思いを学び合う・聴き合う教育活動の工夫・充実 → 方向性や課題の共有と目的の明確化を意識した熟議・協働の工夫・充実
 (4) 全職員のチーム意識を醸成しながら主体性を大切に温かな職場・学校づくり → 同僚性・協働性を発揮しながら、葛藤や困難に対しても支え合って乗り越えられる職場環境や対話・親睦を大切に(双方向に雰囲気や笑顔が子どもや地域に伝播)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1 学校運営	(1) 経営方針をわかりやすく伝えている。	A	経営方針については、概ね共通理解が図られている。今後もPTA集会や各種お便り、ホームページ、すぐー等で発信機会を少しでも多くして周知の拡大を図っていく。	A	A
	(2) 子どもは、学校へ行くことを楽しみにしている。	A	昨年度に比べて生徒の評価が高くなった一方、教職員の評価は低くなっている。今後も生徒が楽しみ成長していけるような授業や行事を企画していける学校運営を行っていく。	A	A
	(3) 誇れる伝統がある。	A	伝統(あいさつ・星・合唱)について、生徒、教職員と保護者との意識に若干のずれがあるようである。共通理解を図りつつ、保護者も求めるものを理解し、生徒の成長に役立つものとしていく。	A	A
	(4) 柏丘中学校は、今日的な教育課題に真摯に取り組んでいる。	A	生徒の思いと保護者・教職員の思いにずれがある。本校の課題の1つである学力向上、適切な生徒支援や不登校生徒への対応など今後も教師側で工夫や改善を図っていく必要がある。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	生徒たちは学校生活を楽しんでおり、伝統に誇りをもって過ごしている。保護者の中にはなぜ伝統になったかを知らない方も多い。経緯の説明・発信に力を入れることで共通理解に繋げていきたい。				
2 学習指導	(1) 生徒の興味や関心をひき、わかりやすい授業実践を行っている。	A	生徒は高い評価であるが保護者・教職員との差が大きい。「学ぶ力の育成」の柱である課題探究的な学習・自治的な活動を軸にした工夫や改善を行っていく。また、保護者への周知を図っていく。	A	A
	(2) 生徒の学力が向上する授業実践を行っている。	B	肯定的な回答の生徒・教職員と保護者の間の差が大きく、保護者は50%台である。教職員で共通理解を図り、教材研究の時間確保・充実と放課後の時間を有効活用しての支援の工夫・改善をしていく。	B	A
	(3) 学習計画に沿って適切な評価・評定を行っている。	A	肯定的な回答は80%以上と高い評価である。来年度からは評価2期制の実施に伴って、教職員側の更なる研修や学習が必要であり、より適切な評価・評定につなげていくことが重要である。	A	A
	(4) 「総合的な学習の時間」は適切な題材が設定・実施されている。	A	肯定的な回答は生徒・保護者で80%以上だが、教職員は60%である。「旅行的行事・合唱・キャリア教育・SDGs」について学んでいるが、3年間を見通した有効的な活動を設定し探究していく。	A	A
	(5) 「道徳」は適切な題材が設定・実施されている。	A	肯定的な回答は、80%以上で評価は高い。おおむね円滑な授業が行われている。その中で「豊かな心」を育む人権尊重の教育を実践し、保護者との共通理解を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	学力向上を目指していくことはもちろん大事だが、学校生活を送りにくくなることは避けていきたい。道徳などの授業も評価が高い。ぜひ、学校公開日で学年一斉道徳などを実施し、保護者の見る機会を増やし、共通理解をいきたい。また、外部の方との繋がりは生徒にとって影響が大きいものと思われる。そのような機会も増やしていけたらよい。				
3 生徒指導	(1) 生徒に「温かい挨拶」ができるように指導し、その結果が出ている。	A	本校伝統の一つである「挨拶」は肯定的回答は多いが、生徒と保護者・教職員の間には差がある。保護者の評価が低いので、日常でも実践できる指導を教職員で再確認し適切な指導・支援を行う。	A	A
	(2) いじめや問題行動を見逃さないように心がけて生徒と接している。	A	肯定的回答の割合は、80%以上で高い評価である。今後も道徳を活用した予防的な指導やアンケート、生徒観察による早期発見など丁寧な指導を心掛け、保護者との共通理解を図っていく。	A	A
	(3) 生徒のことを理解しようと努め、生徒の相談を後回しにせず応じている。	A	三者の肯定的回答の割合は80%以上と高い評価であるが、「自分が大切にされている」と感じられるように生徒の声を聴き丁寧な指導を心掛ける。保護者との連絡を密にし理解を得ていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	生徒の相談活動が雑にならぬように時間の確保などを行っていき、問題を未然に防いでいきたい。また、生徒に対して「指導」ではなく「支援」という方向性で、今後指導を行っていく。				
4 その他	(1) 行事が盛んで、生徒の成長につながっている。	A	肯定的回答が85%以上という高い評価で、昨年度よりも高くなっている。陸上競技大会・学校祭・合唱コンクールなどの行事が生徒によい経験を与えていると考えられる。	A	A
	(2) 保護者・地域・学校で、子どもを育む協力・連携体制ができている。	A	昨年度に比べて、保護者・教職員の肯定的回答が増えている。ほとんどの行事で保護者・地域の方々に参観していただいた。来年度は学校運営協議会が設置され、生徒の育ちや学びを充実させたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	行事の中で生徒の生き生きとした姿を見ることができているのがよい。今後は職員の職務時間の確保や生徒や保護者のニーズを考えた行事運営が必要であると考えます。				

達成状況…A (70%以上) B (40~70%) C (40%以下) で示しています。